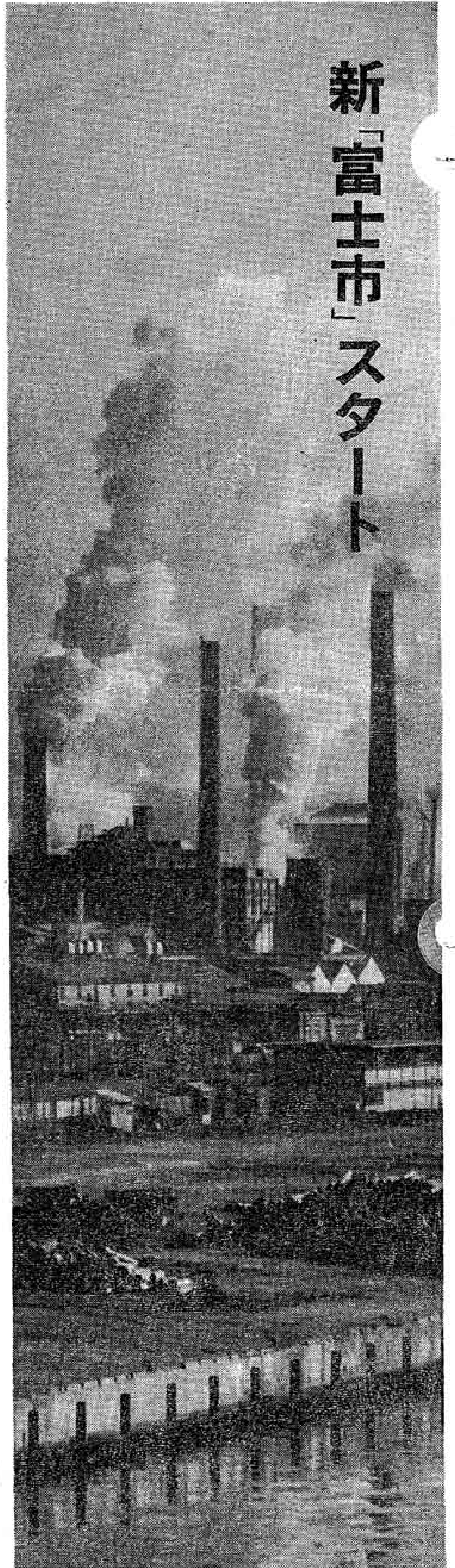


# 「田園・工業都市めざして」

## 新「富士市」スタート



☆ 新富士市は、十一月一日にスタートしてからの和々を基調に、行財政力を結集  
 ☆ して、前向きに諸事業を進めています。新市建設の基本構想は「富士市総合開発計  
 ☆ 画書」に描かれているように、経済開発と社会開発を中心に、効率的な地域開発を  
 ☆ 進め、住民福祉の向上をはかることを目的としています。それでは、総合開発計画  
 ☆ 書に盛り込まれた「大富士市」建設の基本方針をみてみましょう。

### 富士市総合開発計画

## バイパスや愛鷹山の 観光開発を推進

まず経済開発では、田子の浦港の整備、道路網の整備、工業用地の造成、工業用水の確保など工業立地条件の整備がはかられます。

田子の浦港は、昭和三十三年から築港がはじられ、三十六年には一部使用を開始、四十年には取り扱貨物量も一〇〇万トンを超え、本年四月には国際貿易港の指定を受けるなど、四年の完成がもたれます。なお、完成時には泊地面積四万五千方、一万トン三バース、五千トン八バース、三千トン一〇バースで、取り扱い貨物量も二五〇万トンを超える規模になります。

道路網の整備は、現在の幹線道路は東西経済圏を結ぶ国道一号线を中心に国道一三九号線(吉原大月線)浮島三島吉原線(根方街道)田子の浦富士線鷹岡富士線などが放射線状にのびていますが、いずれも飽和状態となつていきます。とくに国道一号线の交通量は年々ふえるばかりで、日本の大動脈は完全にマヒ状態です。この対策として東名高速道路、富士バイパス(依田橋—

由比町)沼津バイパス(依田橋—沼津市)の早期建設を建設省、日本道路公団に呼びかける一方、南北の連絡幹線道路の整備を進めます。主要路線の舗装は昭和五十年までに完了します。

工業用地の造成は、産業公害を未然に防ぎ、市街地、住宅地との混在をさけるため、臨海性企業は田子の浦港の背後に工業団地を、重化学工業に開連した用地には新幹線以南の富士川左岸から浮島を中心とした二七二ヘクタールの用地があらわれます。昭和五十年には工業出荷額三二六億円を見込み紙・パルプ製造業を中心に重化学工業部門の業種によつて産業の高度化がはかられていきます。

工業の伸展にともない工業用水の需要も多くなります。昭和三十八年には一日一三三万トンの需要量でしたが五十年には二四五万トンの需要量が見込まれます。このため、すでに供用のはじめられている富士川工業用水道の整備をはかる一方、工業、農業、上水共用の東駿河湾工業用水道の早期建設

を行なつていきます。社会開発としては、住宅の増設、文教施設の整備、福祉施設の整備、衛生施設の整備、レクリエーション施設の整備などが実施されます。

住宅は、第二次産業の発展とともに動労世帯の増加が予想されますので、昭和五十年までに公営、公庫、公団住宅などを七〇〇戸建設します。また最近住宅地の入手が困難になつてきたため、宅地開発事業として、昭和五十年までに横沢厚原団地(収容戸数一九七〇戸)、岩本山団地(収容戸数五〇〇〇戸)を造成するのをはじめ、土地画整理事業を計画的に進め吉原地区に四〇〇〇戸、富士地区に一四〇〇戸、鷹岡地区に一〇五〇戸の宅地造成を行う計画です。

文教施設の整備では、まず学校施設を充実させるため、小中学校校舎の新設をはじめ、体育館、プール、給食施設などの整備を行います。このほか視覚聴覚を備えた移動文化館(走る市役所)動労青少年会館、総合運動場な

どを建設し、社会教育活動を強力に推進します。市民が健康で明るい生活を営むためになくならないレクリエーション施設の建設としては、もつとも不足しているといわれる公園の造成を中心に行なつていきます。工特計画にのせられて石坂(伝法町と石坂の間)昭和(柏原町)富士川(船場下 かりがね(松岡)の普通公園、砂山(鈴川砂山)岩本山の自然公園など八公園を一日も早く整備していきます。また、愛鷹山系のハイキングコース、山小屋、キャンプ場などを整備して、市民の憩いの場とするほか、岩本山を公園計画とともに道路を整備し白糸の滝、田貫湖などを結ぶ観光ルートにしていきたいです。

福祉施設については、まず児童施設として保育園、遊び場の新設、母子福祉センター、児童健康センターなどの建設を行ないます。老人施設としては老人クラブ活動を推進するため一老人憩の家」を建設します。ちえおくれの子どもが独立するために必要な、技能や生活習慣を身につけさせる施設「ふじやま学園」を大淵地区に建設します。

衛生施設は、医療施設の整備として市立富士中央病院の病棟を増設するほか、吉原地区に市立病院を新設します。上水道は現在の普及率七二%が昭和五十年には九〇%になる見込です。この対策として、富士地区の第二次拡張事業、吉原地区の水道事業を整備します。

## 市立病院・児童センターも建設

文教施設の整備では、まず学校施設を充実させるため、小中学校校舎の新設をはじめ、体育館、プール、給食施設などの整備を行います。このほか視覚聴覚を備えた移動文化館(走る市役所)動労青少年会館、総合運動場な

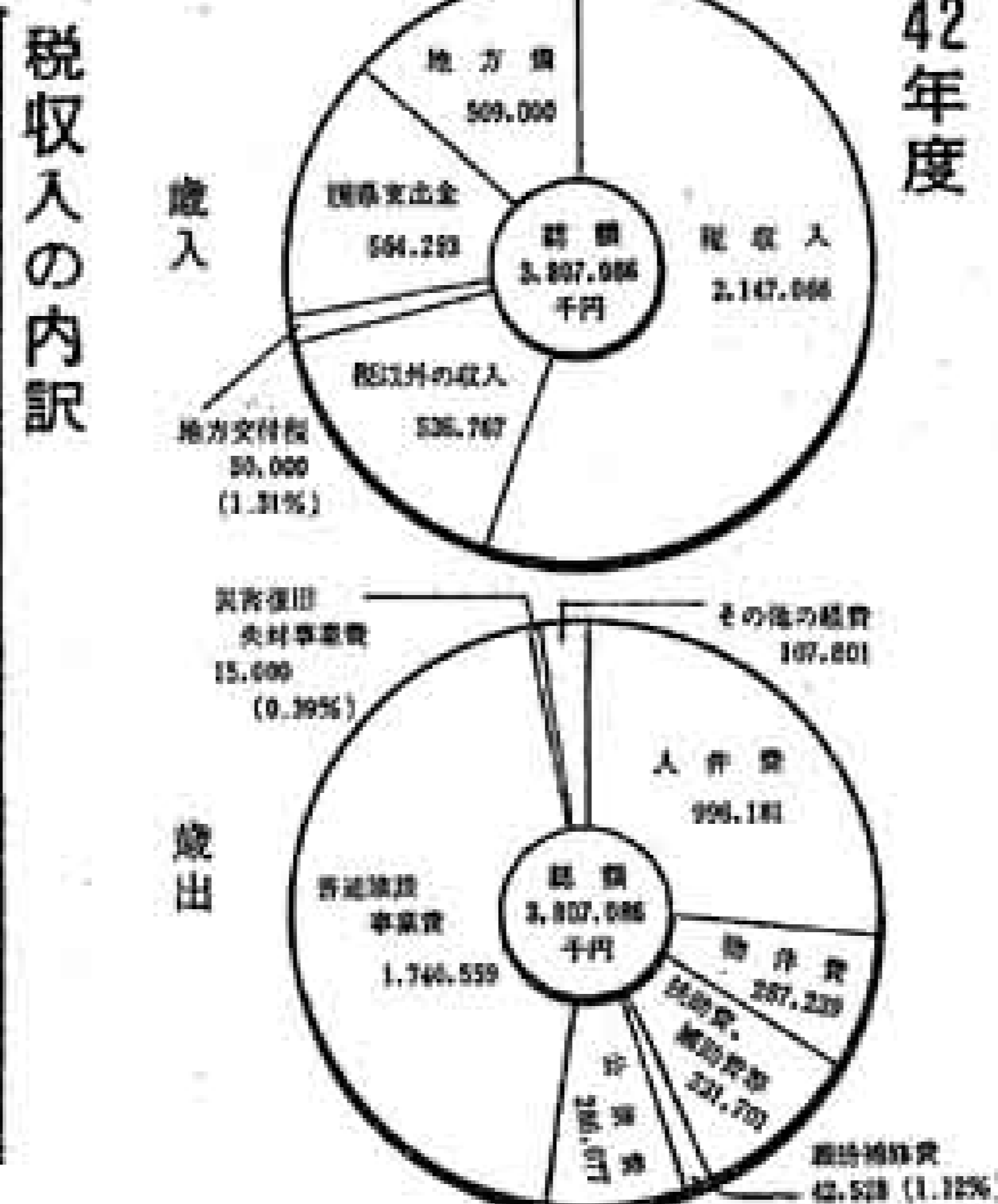
どを建設し、社会教育活動を強力に推進します。市民が健康で明るい生活を営むためになくならないレクリエーション施設の建設としては、もつとも不足しているといわれる公園の造成を中心に行なつていきます。工特計画にのせられて石坂(伝法町と石坂の間)昭和(柏原町)富士川(船場下 かりがね(松岡)の普通公園、砂山(鈴川砂山)岩本山の自然公園など八公園を一日も早く整備していきます。また、愛鷹山系のハイキングコース、山小屋、キャンプ場などを整備して、市民の憩いの場とするほか、岩本山を公園計画とともに道路を整備し白糸の滝、田貫湖などを結ぶ観光ルートにしていきたいです。

福祉施設については、まず児童施設として保育園、遊び場の新設、母子福祉センター、児童健康センターなどの建設を行ないます。老人施設としては老人クラブ活動を推進するため一老人憩の家」を建設します。ちえおくれの子どもが独立するために必要な、技能や生活習慣を身につけさせる施設「ふじやま学園」を大淵地区に建設します。

衛生施設は、医療施設の整備として市立富士中央病院の病棟を増設するほか、吉原地区に市立病院を新設します。上水道は現在の普及率七二%が昭和五十年には九〇%になる見込です。この対策として、富士地区の第二次拡張事業、吉原地区の水道事業を整備します。

区分 税目別	1人当り税額	
	昭和41年度 当初予算	昭和42年度 推定額
1 普通税	1,796,448千円	2,088,254千円
①市民税	534,936	680,714
②固定資産税	836,091	892,566
③軽自動車税	24,822	30,546
④市たばこ消費税	129,496	180,440
⑤電気ガス税	270,791	303,488
⑥木材取引税	282	500
2 目的税	55,653	58,809
①都市計画税	55,653	58,809
3 旧法による税	0	3
計	1,852,101	2,147,066

(注)人口は40年10月1日の国調による(人口159,572人)



## 新市政のお台所